

このまま決めていいのですか

核のごみ
を問う

知る・考える

拙速な判断、民主主義に反する

うえだ・ふみお
1948年生まれ。弁護士。2003年から3期の札幌市長在任中、「自治基本条例」制定など市民活動や子どもとの権利擁護に力を入れた。

上田文雄さん(72)



寿都町にも、神恵内村にも、そんな意図はないと思いませんが、「核のごみ」最終処分場選定への応募の是非を判断する材料を住民に十分示さず、短期間に結論を出そうとするのは、最大の問題だと思います。民主主義のルールに反するのではないでしょうが。最終処分場の選定は、世界中が現在も悩みに悩んでいます。

前札幌市長・弁護士
上田文雄さん(72)

さまざまな手口の詐欺と共に通するポイントは、判断を急がせるということ。だれかに相談させたり、ゆっくり考える時間を作ったりしていたら成功しない。

寿都町にも、神恵内村にも、そんな意図はないと思いませんが、「核のごみ」最終処分場選定への応募の是非を判断する材料を住民に十分示さず、短期間に結論を出そうとするのは、最大の問題だと思います。民主主義のルールに反するのではないでしょうが。最終処分場の選定は、世界

中が現在も悩みに悩んでいます。

最終処分場の選定は、世界

中が現在も悩みに悩んでいま

す。調査の段階に応じて交付金を積む国の方は、鈴木直道知事が当初言つたように、「札束でぼおをはたくようなやり方」です。原子力政策への理解を深めてもらい、その結果、協力を得るという

ところからはほど遠い。

2000年に最終処分に関

する法律ができる前提になっ

ているのは、さまざまな地層

地」と判断されても、途中で

調査の交付金を受け「適

果、『適地でない』という判

断はまず出ません。

文化の魅力とか、本当に必要なものが見えてくる。大都市の元市長に何がわかると言われるかもしれません、自由に使えるお金がない点は変わりません。巨額の交付金を受けると、深い議論をしなくとも済むから知恵を絞ることをやめ、結果的に自治を弱めてしまします。

◇隨時掲載します。

の条件に対応する「人工バリア」を作ることで、極めて長期間にわたる地層処分の安全性を確保できる、との考え方です。これだと、明らかに適性を欠く場合を除けば「何でもあり」です。文献調査の結果、「適地でない」という判断はまず出ません。

原発の使用済み燃料から出る高レベル放射性廃棄物（核

のごみ）の最終処分場選定をめぐり、応募に向けた動きが寿都町と神恵内村で大詰めを迎えてます。この問題に心を寄せる人たちの話をもとに理解を深め、考えていま

す。
札幌市長時代、新幹線の誘致運動で、初めは「北海道のために」と頑張りました。でも、それでは国も国會議員も動いてくれない。そこで、日本のために北海道新幹線が必要だと発想を転換した。「北海道を活用すれば東北も北関東も潤う」。そう訴えたら、東北新幹線の沿線の市長たちも耳を傾けてくれました。